

自己評価報告書(最終報告)

報告者

言語系コース(国語)／原 卓志

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

○授業内容: 国語学の学問分野と学習指導要領とを対照し、国語科担当教員として必要な国語学上の知識と研究方法が身につくような題材を精選する。特に、学習者の言語生活の中から、教材を発見できる力を育てる。
○授業方法: 国語学的な問題点を発見し、説明することができる力。自分の考えを説明したり、話し合いを通して、よりよい結果を導くことができる力の育成を目指して、研究発表・模擬授業と討議を組み合わせた授業形式を中心とする。なお、研究発表・模擬授業のレベルを向上させるために、発表者に対して事前指導を行う。
○成績評価: 授業記録ノートの作成を課し、毎時間の授業内容・学期を通しての発見や新たな提案を記録させ、受講生自身に自己評価させる。

2. 点検・評価

1. 目標・計画

①授業内容: 語学・文学総合演習 I (3年生対象)の授業において、受講生に模擬授業を課した。模擬授業を構想するに当たって、授業内容が学習者の言語生活に結びつくことをねらい、言語生活の中から教材を見いだすことを課題とした。国語学特論 I (2年生対象)の授業では、日常普通に使う言葉の使い分け・意味を分析し、分かりやすく発表することを課題とした。
②授業方法: 2年・3年生対象の授業ともに、受講生による研究発表・模擬授業と、それに関する討議を中心に展開した。それぞれの授業においては、発表者に事前指導を行い、そのレベルの向上を図った。
③成績評価: 3年生対象の授業において、授業記録ノートの作成を課し、毎時間授業を通して考えたこと・発見したことなどを記録させ、自己評価させた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

○正規の授業時間の外に、教員採用試験に向けて、以下のような支援を行う。
1. 自己PRに関する個人指導。2. 専門試験(古典分野)に関する指導。3. 模擬授業・模擬集団面接の指導。4. 論作文指導。
○学生・院生との円滑なコミュニケーションを図る。

2. 点検・評価

○教員採用試験に向けての支援として、次のような活動を行った。
1. 就職委員会委員として、就職支援室主催のガイダンス・模擬試験の面接官として協力した。
2. 授業時間外に、自己PRなどの添削指導、模擬授業・模擬面接の指導などを行った。
3. 専門試験対策として、古典文学の輪読会を行った。
○授業やその他の場面で、常に声かけを行い、円滑なコミュニケーションを図るよう努めた。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

○科学研究費基盤研究(C)「国語史資料・学習史資料開発のための近世地方寺院伝存文献の調査研究」(5年計画の4年目)の研究を推進する。特に、『国伝山地蔵寺所蔵文献目録〔下冊〕』及び『同索引』を刊行し、新たに、弘誓寺などの調査に着手する。
○醍醐寺所蔵宋版一切経目録の刊行のために、追調査を5月末～6月初におこない、最終原稿をまとめる。本年度中に、出版社(汲古書院)に入稿することを目指す。

2. 点検・評価

○科学研究費基盤研究(C)「国語史資料・学習史資料開発のための近世地方寺院伝存文献の調査研究」の一環として、弘誓寺伝存の文献について調査を終了した。さらに、莊嚴院地蔵寺伝存文献の調査にも着手し、現在進行中である。また、『国伝山地蔵寺所蔵文献目録〔下冊〕』を刊行し、昨年度刊行した『国伝山地蔵寺所蔵文献目録〔上冊〕』とともに、鳴門教育大学リポジトリに公開した。
当初予定していた『国伝山地蔵寺所蔵文献目録索引』については、作成中であるが、刊行にまで行き着かなかった。
○醍醐寺所蔵宋版一切経(重要文化財)目録刊行のための原本調査を、6月・8月の二回にわたり実施した。最終的な目録原稿整備を進め、当該目録掲載の「刻工名索引(仮)」「捨銭刊記一覧并喜捨人索引(仮)」の1次稿を作成した。
○本学研究紀要に『【翻刻】臨江山地蔵寺蔵「孟子聞録」』を投稿した。また、「品詞別学校文法講座」(明治書院)第四巻第五章の執筆を担当し、8月に入稿した。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- 就職委員会委員としての職務を全うする。
- その他、大学運営に関して、協力を惜しまない。

2. 点検・評価

- 就職委員会委員(副委員長)として、会議や諸行事について積極的に協力した。また、滋賀県・京都府・京都市・岡山県・広島県・兵庫県・神戸市の各教育委員会を訪問し、教員採用試験に関する情報収集を行った。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- 学部・附属国語科連絡協議会に参加し、附属学校教員との連携を図る。
- 教育委員会などの協力要請に関して、積極的に対応する。

2. 点検・評価

- 学部附属国語科連絡協議会に参加し、附属学校教員との連携を図った。
- 平成25年度徳島県中学校国語教育研究大会(10月25日:徳島県中学校国語教育研究会主催)の分科会研究協議において指導助言を行った。また、その事前協議会にも参加し、助言を行った。
- 2014年1月15日、香川県立高松桜井高等学校からの要請をうけて、高等学校2年生(242名)を対象とした講演(テーマ:ことばで人を動かす—音声表現と文字表現—)を行った。
- 第60回小学校教育研究会(2014年2月8日)で、協同研究者をつとめた。
- 徳島県NIE推進協議会会長として、7月に開催された全国大会(於静岡市)に参加した。また、NIEセミナー等にも参加した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

○就職委員会委員(副委員長)として、学生・院生の教員就職に関して積極的に活動したこと。
○平成25年度徳島県中学校国語教育研究大会、第60回小学校教育研究会(2014年2月8日)における指導助言、共同研究者の他、香川県立高松桜井高等学校に出向いて授業したほか、徳島県NIE推進協議会会長として活動したこと。